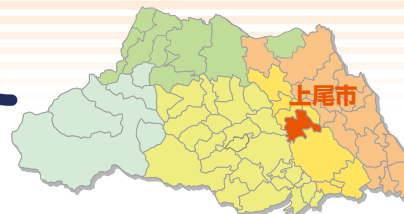




県内首長インタビュー③④

上尾市 島村 穰 市長(70歳)



上尾に生まれ育ち、40年以上も市政に携わってきた島村市長

■田園都市から工業都市、そして住宅都市へ

上尾市は、さいたま市の北側に位置し、東京都心部へは約35kmの距離にある人口23万人の都市で、平成25年には市制施行55周年を迎えた歴史あるまちである。

上尾駅前の都市的な街並みが広がる一方、市内を流れる荒川や綾瀬川、原市沼川、鴨川、芝川などの河川沿いには緑が広がり、市内各地に武蔵野の面影を残す雑木林も見られる自然豊かな環境にある。江戸時代、上尾地区は中山道の5番目の宿場町として、平方地区は荒川舟運の要衝として、原市地区は市場町としてそれぞれ発展してきた。

上尾市の交通の歴史は古く、明治16年に日

本3番目となる日本鉄道（現高崎線）が敷かれて上尾駅が設置され、市街地形成が進んだ。

明治末期には製紙工場が建設され、昭和になると機械や金物、食品工場などが相次いで操業を開始し、田園都市から工業都市へと姿を変えて栄えてきた。高度経済成長期には、4つの大型団地（原市団地・尾山台団地・西上尾第一団地・西上尾第二団地）が相次いで建設されて、人口急激日本一を記録するなど、東京のベッドタウンとしても発展してきた。

この春に直通運転が開始された上野東京ラインにより、乗り換えなしで山手線東側からダイレクトに横浜方面へアクセスできるようになった。山手線西側の池袋・新宿駅方面から横浜方面へアクセスする湘南新宿ラインと併せて、交通の利便性が格段に向上した。また、市内には埼玉新都市交通（ニューシャトル）が走り、県内最大のターミナル駅の大宮駅と結ばれている。

■健康とスポーツのまち 上尾

上尾市は、平坦でコンパクトなまちであることから自転車利用に適しており、自転車利用の割合は全国や埼玉県と比較しても非常に高くなっている。このような特性を踏まえ、上尾市都市計画マスタープランに「質の高い

居住環境と自転車のまち“あげお”」を掲げ、日常生活圏における自転車利用を推奨している。

また、自転車の安全な走行環境の創出に努めており、市道の2.5kmの自転車レーンを整備し、市民協働事業によるルール・マナーの啓発活動も行っている。平成25年度からは、自転車を活用した地域活性化イベント「スマート・サイクル☆フェスタ」が開催され、



- ① 自然を満喫できる上尾サイクリングロード
- ② 市民と協働で作成したサイクリングマップ
- ③ サイクリングレーン



上尾市のキャラクター アッピー

県内外の自転車愛好家2,000名超が参加するなど注目度も高まっている。

上尾市のスポーツへの取り組みは歴史があり、約40年前の昭和51年にスポーツ都市宣言を行い、スポーツや運動による健康づくりを推奨している。市内には、県内でも有名なさいたま水上公園や上尾運動公園に加えて、昨年の11月には埼玉アイスアリーナがオープンした。フィギュアスケートやアイスホッケーの国際規格を満たしたメインリンクや、カーリングレーンなどのサブリンクなどを完備したアイスアリーナは、一年を通じて利用できる通年型のアイスリンクで、スケート人口の拡大や選手育成などにも大きな注目が寄せられている。

■子育て支援で定住人口の増加を

高度経済成長期に人口が急増した上尾市においても、現在、高齢者人口の増加と生産年齢人口の減少が始まっている。これは、経済や地域活力の低下を招くだけでなく、自主財源である市税収入減に密接に関連することからも深刻な問題である。その一方で、歳出面においては、扶助費や高齢者対策といった義務的経費は増加しており、公共施設や道路などのインフラ整備については、計画的な更新が求められている。

今年度、就任二期目・任期最終年度を迎えた島村穰市長は、市が直面しているこれらの状況を踏まえ、「将来に過度な負担を残すことなく多様化する市民ニーズに応え、子ども



上尾市の新たなスポーツスポット「埼玉アイスアリーナ」。冬季の金・土曜・祝祭日前日の夕方には、照明効果を用いたイベントタイムが設けられてアイススケーター気分が味わえる。

から高齢者まで、全市民が住みやすさを実感できるまちづくりを進めるには、安定した税収の確保が必要」としている。

平成26年度には、市の10年後を見据えて、「トップマネジメント機能の強化」「行政運営から行政経営へのマネジメント機能の強化」「少子化を見据えた子育て支援大切の充実」などを目的に、25年ぶりとなる大規模な組織再編が行われた。福祉部門の増強と併せて、「ヒト・モノ・カネ」といった経営資源を行政経営部に集約して効率的な経営を行うことで、税収減の確保に対応していく予定だ。

平成27年度は、「子どもから高齢者まですべてにやさしい思いやり市政」実現に向けた6分野に重点を置いた予算が編成された。なかでも定住人口の増加を視野に、待機児童の解消や小中学校舎の耐震化、1学区1学童保育所の完備など、子育て支援や教育環境整備事業が多く盛り込まれている。

交通や住環境の充実など、住みよい環境の影響からか転入者も多く、上尾市の総人口は現在も横ばいで推移している。こうした環境に加えて、子育てしやすい環境づくりを整備・推進し、子どもから高齢者まで、「上尾に住んでよかった」と思える、「笑顔きらめく“ほっと”なまち あげお」の実現を目指している。

上尾市の概要

人口 (H26年埼玉県町(丁)字別人口調査)	228,155人
世帯数 (同上)	95,384世帯
平均年齢 (同上)	44.6歳
生産年齢人口比率 (同上)	63.3%
面積 (H26年全国都道府県市区町村別面積調)	45.51平方キロメートル
名目市内総生産 (H23年度市町村民経済計算)	5,507億 1,791万円
事業所数 (H24年工業統計)	241事業所
製造品出荷額等 (同上)	3,870億 74万円
事業所数 (H24年経済センサス)	6,246事業所